

# いなさの風

令和3年2月発行  
発行者 久我 文昭  
編集 伊那佐まち協  
事務局広報

伊那佐まちづくり協議会  
ホームページ (HP)※  
<https://inasa-matikyuu.jimdofree.com/>  
スマホは下記QRコード  
からご覧ください。



地道なまちづくりに挑戦  
できることから一歩一歩

伊那佐地区まちづくり協議会

会長 久我文昭

謹賀新年

つつしんで新年のお慶びを  
申しあげます

昨年は新型コロナウイルス禍の中  
にあつて、日常の生活が一  
変し、予期せぬ苦難の年で  
した。またそれに加えて気  
候変動による災害も多発し  
ました。

本年は人類の英知によつ  
て、感染が収束すること  
を願うと共に、私たち一人  
一人が各自の役割について真

剣に考えて行動しなければ  
ならないと思います。

まちづくり協議会の活動  
も年初の事業計画通りに実  
施できた活動、縮小した活  
動、できていない活動と三  
分されます。諦めることな  
くやれることから、またど  
うすれば活動できるか手探  
りで一歩でも前に進めてい  
きたいと思えます。

中山間地域の多くの市町  
村は、若手層を中心とした  
人口流出の状況下の中でも  
その過疎に終止符を打ち、  
全国的な田園回帰を先取り  
する自治体が条件不利とさ  
れていた山間部、離島の小  
規模の自治体の中から生ま  
れている。

時代の転換期において長  
続きする地域の条件とは何

であろうか？まちづくりの  
今後の活動ポイントがそこ  
にあると思う。

どこでも同じような疎遠  
な人付き合いや食べ物、子  
育てといった暮らしぶり  
であれば、無理にそこを選  
び住むことはない。便利さ  
や稼ぎからいえば都市に住  
むかという話になる。

「こんな暮らしを自分たち  
はしたい・できる！」と自  
分たちの暮らしを主体的に  
「選び取る」人達から選ば  
れる地域、自然の美しさや  
厳しさに応じた多様な暮ら  
しが成り立ってこそ、持続  
可能地域が実現する。

【暮らしの意志】を地域全  
体から感じられることが第  
一の条件であります。

第二に過疎対策の主流は  
都市との格差是正や利益還  
流を求めるものでありまし  
た。それが全てにおいて  
限界に直面しつつありま  
す。多様で長続きする「小  
規模・分散型文明」への方  
向転換が求められる。

第三に世代を超えた営み  
ができる住民の存在であり  
ます。後の世代のことも考  
えてがんばってきた幾代も  
の人々の努力で、今の姿に  
なっている。「今だけ、自  
分だけ、お金だけ」の風潮  
があるが、それではよい地  
域にはならない。未来を語  
る時、今の中高年が自分の  
代だけの欲得や逃げ切りを  
図らないこと、次の世代の  
記憶に残る志を示すこと、  
地域でその記憶が紡がれて  
いけば、何代にも及ぶ「大  
きな波」になる。その波を  
起こす環境づくりがまち協  
の役割だと思ふ。

## 子育て教育・健康福祉部会

松岡公輝

令和二年は、新型コロナウイルスの感染拡大に世界中がパニックになった一年でした。日本も例外ではなく、八月頃までは何とか持ちこたえているように思えましたが、九月ごろから感染者が増え始め、一二月末から令和三年一月の現在にかけて爆発的に増加し続け、緊急事態宣言が出されても収まる兆候が見られない状況です。多くの高齢者や高血圧や糖尿病などの既往症のある人たちが肺炎を患い重症化し、命を落としているという報道を耳にするたびに、悲しく悔しい思いが増してきます。

奈良県も医療が逼迫し、緊急事態宣言が出される予備軍的な現状であり、私た

ちの地元宇陀市においても少数ではありますが毎日のように感染者が出てきています。今年度計画をしていた「世代間交流会（餅つき・焼き芋など）や「生き生き一〇〇歳体操」は、

重症化リスクの高い高齢者を対象に行っている事業であり、何とか実施していける方法がないか模索していますが、現在のところ実施できないでいます。感染予防策の徹底を図っても防ぎきれないかもしれせん。感染リスクを避けるためにも、もうしばらく勇気を持って活動を自粛すべきなのではないかと考えます。安心して実施できる状況になれば、改めてご案内しますのでご協力お願いします。



## 環境・防災・防犯部会

浦田重博

明けましておめでとうございませう。

昨年は、コロナに振り回された年であったと思えます。年度当初から新型コロナウイルス感染症が増加する中、環境・防災・防犯部会として何か出来ないかと考え、コロナの終息は長期戦になるとの思いで緊急対応カード配布を六月初旬に全戸に配布することが出来ました。

美化活動（旧伊那佐文化センター道路側緑地帯）の草刈り作業を六月初旬、八月末、十月末の三回実施し草刈り後の草も全て家畜の餌として処理することが出来ました。

最後に当部会として昨年二月に「困っています鳥

獣被害』みんなで作えよう猪・鹿・アライグマ対策冊子」を発行いたしました。今年は活動に制限がある為、昨年の冊子の改訂版の発行にとどめたいと思いません。

獣被害を考える会（情報交換会）の開催を計画していましたが集まること困難な状況です。

伊那佐地区の鳥獣害対策に関わって戴いている皆様との意見交換会（情報交換会）、状況が改善されれば開催いたしたくご参加を宜しくお願い致します。



# 地域振興・ 産業・観光部会

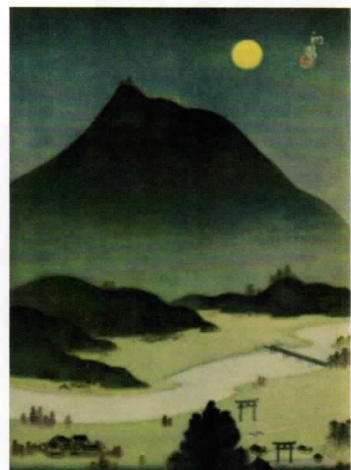
田中照巳

## 伊那佐山 整備事業計画 について

### ①はじめに

初代天皇である神武天皇が、大和を征服して橿原宮で即位するまでの日本神話の説話「神武東征伝説」を残す伊那佐山（六三七・二m）は、今も信仰の山として都賀那岐（つがなき）神社が祀られています。

山頂には神武東征の際に詠まれた古歌の碑が社殿の前に建てられています。また、キリシタン大名・高山右近の居城だった沢城の城跡が南側尾根にも残り、史跡に包まれた山です。



比較的容易に登れる山とあって、ここ数年訪れる人も多くなっています。

しかし、登山者用の駐車場もなく、案内看板等の劣化も目立ちます。

また、頂上付近の見晴らし台は、大パノラマが広がり休憩場所として最適にもかかわらず、ベンチの設置等もありません。

このことから、駐車場、登山道、及び見晴らし台の整備がなされれば、今以上の集客性も期待できます。

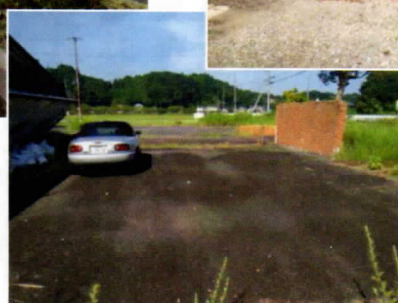
そこで、伊那佐地区の観光資源の一つとして、二年計画の伊那佐山整備を行います。

### ②今年度の計画

今年度は、登山道調査や案内看板等の点検を終え、一月からは、旧伊那佐体育館横の空き地を利用して、登山者駐車場の整備を行います。

この整備にかかる費用については、市の補助金を利用してさせていただきます。

工事が終了すれば、案内看板や危険防止柵等の設置を行い、三月には利用できるようにします。



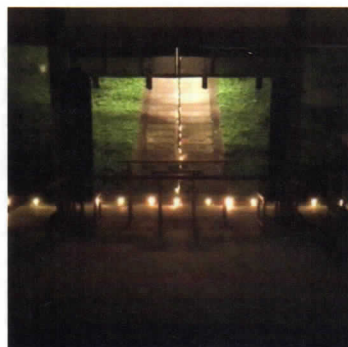
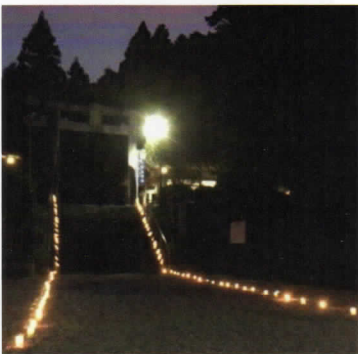
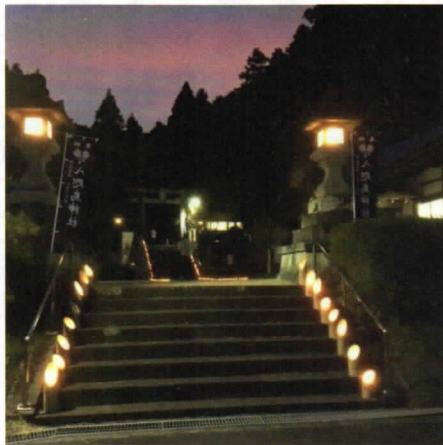
# 伊那佐『灯』 Mate2020 を振り返って

事務局 奥田 博

新型コロナウイルス感染症予防のため、今年度の「灯Mate2020」は、会場を神武東征伝説ゆかりの八咫烏神社に移して、新型コロナウイルス感染症終息祈願灯回廊と終息祈願打上花火を実施しました。

九月一八日に祈願祭を実施した後、一九日から二六日まで、八咫烏神社境内に四〇〇本のアロマトーチを配置し、揺らめく灯と香りで幻想的な光回廊を演出しました。二六日には終息祈願打ち上げ花火を行い、夜空に輝く光の輪に無病息災を願いました。この間延べ二〇〇人の方々が神社を訪

れ、中には関東から来られた方もおられました。また、この事業は宇陀チャンネルでも放映され、奈良新聞にも掲載されました。  
新型コロナウイルス感染が拡大する中、この事業を継続させるため、密を避け、予防対策を講じた灯Mateを  
目指さなければと思いまし  
た。



伊那佐地区まちづくり協議会では、新規会員をいつでも募集しています。  
現在の会員も「地域の活性化」「叶えたい未来ビジョンのため」「地域の仲間づくり」「ご自身の健康づくり」など抱く思いは様々です。  
まずは自己実現の第一歩として、地域の皆様の思いと元氣をお貸しください。  
連絡先は、事務局のメール (zenrec2000@yahoo.co.jp) まで、お気軽にお問い合わせください。

